

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 26 日 (2019.12.26)

【公開番号】特開 2019-178177 (P2019-178177A)

【公開日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【年通号数】公開・登録公報 2019-042

【出願番号】特願 2019-137721 (P2019-137721)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/7076 (2006.01)

A 6 1 K 31/4365 (2006.01)

A 6 1 K 31/616 (2006.01)

A 6 1 K 47/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/26 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/519 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/7076

A 6 1 K 31/4365

A 6 1 K 31/616

A 6 1 K 47/02

A 6 1 K 47/26

A 6 1 P 9/10

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 31/519

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 12 日 (2019.11.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

経皮的冠動脈インターベンション (P C I) 中に、カングレロールの投与から、長期処置のための経口 P 2 Y₁₂ 阻害剤の投与に患者を移行させる方法において使用するための、カングレロールを含む組成物であって、該方法は、

(1) P C I 開始前に 3 0 μ g / k g のカングレロールのボラスを静脈内投与すること

、
(2) 該ボラスの投与後に、4 μ g / k g / 分のカングレロールの持続注入を静脈内に投与すること、

(3) (a) 少なくとも 2 時間、または、(b) P C I の期間のいずれか長い方の期間にわたって、該持続注入の投与を継続すること、および

(4) (a) 該持続注入の投与中、または、(b) 該持続注入の投与の中断後のいずれかに、経口 P 2 Y₁₂ 阻害剤の経口用量を投与することを含む、組成物。

【請求項 2】

前記経口 P 2 Y₁₂ 阻害剤が、クロピドグレル、プラスグレルおよびチカグレロルからな

る群より選択される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記経口 P 2 Y_{1,2} 阻害剤がチカグレロルである、請求項 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記経口用量が 180 mg のチカグレロルの負荷用量を含む、請求項 1 および 3 に記載の組成物。

【請求項 5】

カングレロールが、200 µg / mL のカングレロールを含む医薬組成物中に存在する、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記医薬組成物がさらに、0.9 % 塩化ナトリウム注射剤または 5 % デキストロール注射剤を含む、請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記ボーラスが、1 分未満で投与される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記持続注入が、約 5 時間までの全期間にわたって継続される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

前記方法がさらに、前記負荷用量に続いて、チカグレロルの 1 つまたは複数の経口用量を投与することを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 10】

後続の前記 1 つまたは複数の経口用量が 90 mg のチカグレロルを含む、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記持続注入の投与が、前記ボーラスの投与の直後に開始される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記方法がさらに、前記持続注入の投与の前または間に、アスピリンを投与することを含む、請求項 1 に記載の組成物。